



地域の力を学校に！～地域とともにある学校へ

前号で書くことができませんでしたが、10月25日（木）に、本校で県教育委員会の主催事業『県民総ぐるみ教育推進研修会』が行われました。日向・門川・東臼杵郡を中心とした、学校関係者、社会教育関係団体、地域・学校ボランティアの皆さん約140名が本校に集まり、門川小学校と門川高校の地域人材を活用した実践発表を聞き、本校の授業を参観した後に、研修を受けていただくというスケジュールでした。

もともと本校では、総合的な学習の時間に、1年生は「働く」ことの意味や意義を理解するために、地域の方の話を聞く『社会人よのなか教室』を、2年生は将来の進路選択の参考にするために、高校の先生に中学生でも分かるような内容の授業をしていただく『高校よのなか教室』を実施していました。1年生の『社会人よのなか教室』を、簡単に紹介します。



【1年生「社会人よのなか教室」の様子】

生徒が追求する課題ー働く意義・やりがい・苦労、働く上で必要な力、門川町で働く魅力

講 話

- 8名の地域の方々に、上記の内容でお話いただき、生徒は8名の方の名から、2名の方を選び、お話を聞きました。

話し合い活動

- 地域の方の話をもとに、生徒が話し合い活動を通して、上記の課題を追求しました。地域の方には、各グループに一人ついていただき、話し合いを見守ったり、助言したりしていただきました。総勢35名の地域の方にお力添えをいただきました。

そもそも、「働く」というテーマは、学校だけで完結するようなものではないと思っています。ご家庭や地域の皆さんのこれまでの経験や知識等を生徒に伝え、ともに考えることが必要です。この生徒たちが、これからの門川町、日本を支えていく人材になるのですから……。35名もの地域の方の力を借りることができた、よい取組だったと自負しているところです。



宮崎日日新聞「みんなの学校」に掲載！

11月13日（火）の宮崎日日新聞「みんなの学校」というページで、本校が紹介されました。記事は、体育大会、部活動、町内一斉ラジオ体操と、本校の特徴が分かるように、生徒会役員が分担して丁寧に書いてくれました。読んでいらない方は、本校事務室前に掲示していますので、ぜひご覧ください。

さて、当日の朝、一本の電話が学校に入りました。相手は、80歳前の男性からです。お話を聞くと、「今は門川町を離れているが、門川中が母校だ。今朝、新聞を見たら、母校のことが大きく載っていて、うれしくなり、学校に電話した。」とのことでした。相手の方とは、当時の中学校の話や校歌がまだ歌えることなど、たくさん話を聞かせていただきました。誰にとっても、生まれ故郷や母校は懐かしく、心の支えになるものだろうと、改めて感じた出来事でした。子供たちが社会人になった時に、心の支えになるような学校づくりをしていかなければと再認識しました。

備えあれば憂いなし

ご承知のとおり、「普段から準備しておけば、いざという時、何も心配いらない。」という意味です。11月26日（月）に実施した、火災の避難訓練で話した内容です。訓練をすることが「備え」であり、しっかりやれば「憂い」なしということです。冬は、火事が心配です。家庭でもお話しください。「備えあれば憂いなし」は、勉強でも部活動等でも言えることだとも思っています。



【避難訓練（消火器訓練）の様子】